

校番	24	学校名	広島県立賀茂高等学校	校長氏名	山田 剛司	☑・定・通	☑・分
----	----	-----	------------	------	-------	-------	-----

1 育てたい生徒像

- (1) 旺盛な知的的好奇心と向上心を持ち、専門的な知識や技能を基盤にして物事を深く学び探究していこうとする生徒。
 (2) 社会の変化に適正かつ柔軟に対応し、様々な課題に挑み新しい価値を創造してより良い未来に貢献できる生徒。
 (3) 礼節を重んじ、豊かなコミュニケーション力を身に付け、実社会で他者と協働しながら自らの力を発揮できる生徒。

2 ミッション（地域社会における自校の使命）

賀茂台地の伝統校・進学校として、校是「信 敬 愛」を教育の根本に据え、文武両道に励み、郷土をはじめとする社会や地域経済の発展に貢献できる有為なリーダーを育成する。

3 ビジョン（使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像）

- (1) 大学や国際交流機関等と連携し、実践に裏付けられた深い学びの実現を通して優れたグローバル人材を育てる進学校。
 ・社会の発展に貢献する使命感を醸成し、そのために学び自己の可能性を伸ばそうとする生徒を育成している。
 ・社会や世界の動向に注視し、ICTを活用して情報の収集・活用に努め、探究的で深い学びを通して、実社会の諸問題に
 対峙しようとする態度を育成している。
 (2) 将来を見据え、自己の可能性を伸ばし、新たな価値の創造に果敢に挑戦しようとする資質・能力を育てる進学校。
 ・挨拶・マナー、規範意識を醸成させ、コミュニケーション力豊かな社会人としての資質・能力を育成している。
 ・実社会でどう生きるかをテーマに、3年間の学びのストーリーに沿って生徒一人一人がキャリアアップを実現している。
 ・部活動を奨励し生徒会活動を活性化させ、他社と協働して新しい価値を創造できる生徒を育成する。
 (3) 使命感あふれる教職員の組織的な取組と豊富な教育資源の活用により、後期中等教育の可能性を追求する進学校。
 ・組織マネジメントが機能し、新たな視点で改善・改革を進めようとする活気と結束力のある学校経営が進んでいる。
 ・生徒一人一人が3年間の学びのストーリーを描くことのできる進路指導、キャリア教育が充実している。
 ・学校運営協議会が機能し「社会に開かれた教育課程」を実現させ、保護者・地域社会の信頼と期待に応えている。

4 環境分析

ア 高校入試の状況等

入学者選抜の倍率の推移

入試年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2 年度
選抜(I)	1.71倍	1.69倍	1.75倍	1.88倍	1.86倍	1.48倍
選抜(II)	1.18倍	1.30倍	1.21倍	1.20倍	1.08倍	1.03倍

イ 卒業生の進路状況等

	大学3年 (H27入学)	大学2年 (H28入学)	大学1年生 (H29入学)	現3年生 (H30入学)	現2年生 (R01 入学)
①1年7月回 3教科平均偏差値 54 以上	54人	51人	48人	43人	28人
②国公立大学合格者数	71人	80人	90人		
伸び率 (②÷①) %	131.5%	156.9%	185.5%		

ウ 学力向上に関する資料

全国模擬試験 英数国3教科総合の平均偏差値の推移（進研模試）

	1年			2年			3年			
	7月	11月	1月	7月	11月	1月	2月 マーク	6月 マーク	9月 マーク	11月 マーク
R01 入学生	47.6	48.4	49.5							
H30 入学生	48.3	48.3	49.9	49.8	49.3	48.9	49.4			
H29 入学生	49.2	50.9	52.2	50.9	49.8	51.2	51.8	49.1	47.3	47.0
H28 入学生	49.6	50.2	51.1	50.4	50.8	50.5	51.5	49.1	47.5	46.8
H27 入学生	49.6	49.3	49.9	50.1	49.6	48.3	49.0	46.0	44.6	45.2

エ 部活動への加入率

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
加入率（％）	81.0	83.7	82.0	76.0	79.2
体育系（人数）	439	441	412	366	371
文化系（人数）	170	159	171	163	162

オ 部活動の主な成績

(ア) 体育系 県総合体育大会、中国大会は春季、秋季を含む。

年度	全国大会	中国大会	県総合体育大会
令和元年度	レスリング 51kg級 65kg級 125kg級 競泳 女子100m背泳ぎ 女子200m背泳ぎ アーチェリー 女子個人	レスリング 男子団体 51kg 55kg 60kg 65kg 3位 125kg 5位 競泳 女子100m背泳ぎ 2位 女子200m背泳ぎ 1位 女子100m平泳ぎ 女子200m平泳ぎ10位 男子200m背泳ぎ アーチェリー 女子団体 8位 男子団体 8位 ハンドボール女子団体 ソフトテニス 女子個人	レスリング 男子団体 2位 51kg 2位 55kg 2位 60kg 2位 65kg 1位 125kg 1位 競泳 女子100m背泳ぎ 1位 女子200m背泳ぎ 1位 女子100m平泳ぎ 4位 女子200m平泳ぎ 7位 男子200m背泳ぎ 6位 男子200m自由形 8位 アーチェリー 女子個人優勝, 4位, 5位 女子団体優勝, 2位 男子個人 5位, 8位 男子団体 3位, 5位, 8位 ハンドボール女子 3位 弓道 1位 ソフトテニス男子団体 5位
平成30年度		アーチェリー 男子団体準優勝 男子個人 5位 女子個人 水泳 男子100m背泳ぎ 男子200m背泳ぎ 女子50m自由形 7位 女子100m自由形 9位 ハンドボール女子 レスリング 登山	アーチェリー 男子団体 3位 個人 4位・6位 ソフトテニス女子 団体ベスト 8 ソフトテニス男子 ハンドボール女子 3位 ハンドボール男子 バスケットボール女子 水泳 男子100m自由形 男子100m背泳ぎ 7位 男子200m自由形 男子200m背泳ぎ 7位 男子200mメドレー 男子400mメドレー 女子50m自由形 3位 女子100m自由形 5位 バレーボール男子 卓球 ソフトボール女子 剣道 弓道 遠的男子団体 8位 柔道 73kg級 60kg級 陸上競技 レスリング 60kg級 2位

平成29年度	水泳 男子50m自由形	アーチェリー 男子団体 5位 バレーボール男子 ソフトテニス女子 個人 ハンドボール女子 弓道 女子団体 女子個人 男子団体 水泳 男子50m自由形 3位 男子100m自由形 6位 男子100m・200m背泳ぎ 男子4×100m自由形リレー 女子50m・100m自由形 女子200m背泳ぎ	アーチェリー 男子団体 5位 女子団体 4位 ハンドボール女子 3位 弓道 女子団体6位 女子個人8位 水泳 男子50m 自由形 1位 男子100m 自由形 1位 女子50m 自由形 5位 女子100m 自由形 3位 男子4×100m自由形リレー 5位 女子200m背泳ぎ 7位
--------	-------------	--	---

(イ) 文化系

年度	全国大会（総合文化祭等）	主要成績
令和元年度		美術部 ポスターコンクール 入選 ポスター・バッジデザインコンクール 奨励賞 アートムーブコンクール 入賞 献血推進ポスターコンクール 優秀賞, 佳作 「尾道を描く」写生大会 奨励賞 吹奏楽 アンサンブルコンテスト高等学校の部（打楽器4重奏）銀賞 アンサンブルコンテスト高等学校の部（管打8重奏）銀賞 吹奏楽コンクール高等学校A部門 銅賞 軽音楽 高校対抗バンド合戦（P-Summer Live）優秀学校賞 高等学校総合文化祭（軽音楽部門）優秀賞, 最優秀学校賞 科学部 広島県科学賞 入選 未来博士3分間コンペティション2019 最優秀賞 写真 広島県高等学校写真技術大会 1席, 佳作 広島県高等学校写真展 5席 わたしの夏・高校野球写真展 銀賞
平成30年度		吹奏楽 広島県吹奏楽コンクール高等学校A部門 銀賞 広島県アンサンブルコンテスト高等学校の部 クラリネット6重奏 銀賞 広島県アンサンブルコンテスト高等学校の部 サクソフォン4重奏 銅賞 軽音楽 広島県高等学校総合文化祭 平成30年度高校対抗バンド合戦 写真 広島県高等学校写真展 佳作 科学 マリチャレンジプログラム認定研究 広島県科学賞 準特選
平成29年度		吹奏楽 広島県吹奏楽コンクール高等学校小編成部門 金賞 第58回全日本吹奏楽コンクール中国大会 銅賞 写真 第41回 全国高等学校総合文化祭写真部門 出場 美術 第41回 広島県高等学校総合文化祭 ポスターデザイン入選 全日本学生児童発明くふう展 奨励賞

カ 特別指導の件数, 遅刻者数, 退学者数, 休学者数, 転学者数, 長期欠席者数（30日以上欠席）の推移

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
特別指導件数	14	9	19	12	17
遅刻者数	657	455	598	899	1113
退学者数	2	1	3	2	3
休学者数	2	4	4	1	4
転学者数	2	5	9	5	6
長期欠席者数	16	15	13	15	21

キ 年間保健室来室数

生徒1人当りの年間平均来室回数

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
(回)	1.64	1.49	1.56	1.40	1.56

ク 実用英語技能検定取得状況

	H27入学生 卒業時	H28入学生 卒業時	H29入学生 2年終了時	H30入学生 1年終了時	R01入学生 1年終了時
準1級	2人	1人	1人	1人	0
2級	46人	39人	33人	5人	5人
準2級	102人	134人	139人	23人	38人
合計	150人	174人	173人	29人	43人

※平成30年度より希望者受検としており、受検者数が大きく異なる。

4 目標の設定

学校経営目標					
達成目標	評価指標	目標値	実績値	目標値	担当部等
		令和元年度	令和元年度	令和2年度	
1 向学と挑戦：生涯にわたり学び成長する「優れた学習者」を育て、高い目標に向けて自律した行動が取れる生徒を育てる。					
授業等を通じて生徒に身に付けさせたい力（目標）が明確であり、それを実現するための授業のデザイン（学習内容、学習課題及び授業展開等）及び学習の評価の工夫が、継続的に図られている。	生徒による授業評価の満足度80%の通過率（%）	新規	新規	90%以上	教務
	授業観察及び観察コメントの提供を、年間4回（前期2・後期2）以上行った達成率（%）	新規	新規	100%	
	研修旅行実施後アンケートにおける総合的満足度（とても＋概ね）（%）	新規	新規	80%以上	教務 2学年会
確かな進路目標に向かって継続的に努力し、合格を実現している。	1・2年生「学びの基礎診断」（総合学力テスト）における3教科平均（偏差値）	1年 52 2年 52	1年 49.5 2年 48.9	52以上	進路指導 1・2学年会
	卒業生に対する国公立大学及び大学校合格者の割合（%）	40%	40%	35%以上	進路指導 3学年会
	広島大学を含む難関国公立大学合格者（人数）	20人	9人	15人以上	進路指導 3学年会
部活動に向かう姿勢や成果が学力及び人格の成長につながっている。	部活動で学んだことが、自分の学習活動に良い影響を与えている。（%、生徒アンケート）	90	85.2	85%以上	生徒指導
2 貢献と信頼：他者を思いやり社会に貢献する生徒を育て、保護者や地域の信頼と期待を高める。					
学校行事やボランティア活動に主体的かつ協働的に取り組み、充実感や満足感を得ている。	学園祭（合唱祭及び賀茂祭）の充実・満足度（とても＋概ね）（%、生徒アンケート）	新規	新規	90%以上	生徒指導
	体育祭の充実・満足度（とても＋概ね）（%）	新規	新規	90%以上	特別活動

保護者の信頼や地域の期待に応える学校づくり及びその工夫が継続的に進んでいる。	賀茂高校オープンスクール参加者（生徒+保護者）（人数）	600	532	600人以上	総務
	Webサイトの月間更新（回数）	新規	新規	15以上	総務
3 安心と働きがい：生徒及び教職員が安心できる校内環境の整備と働き方改革を踏まえた業務改善を推進する。					
学びに集中できる学校環境が維持されている。	教育相談を受けた生徒保護者教職員への事後アンケートにおける肯定的（とても+概ね）評価（%）	新規	新規	70%以上	環境保健
	美化委員へのアンケートにおける肯定的（とても+概ね）評価（%）	新規	新規	60%以上	環境保健
	挨拶をする習慣が身に付いている。（%、生徒アンケート）	100	89.7	95%以上	生徒指導
	スマートフォン等の持ち込みに係る誓約書等違反（件数）	新規	新規	10未満	生徒指導
働き方改革に向けた意識変革及び業務改善の見直しが進み、教育公務員としての使命や意欲が高く維持されている。	1か月当たりの超過勤務時間が80時間を超える教職員の数	新規	新規	0人	管理職

5 行動計画

学校経営目標			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
1 向学と挑戦：生涯にわたり学び成長する「優れた学習者」を育て、高い目標に向けて自律した行動が取れる生徒を育てる。			
授業等における付けたい力（目標）が明確で、そのための内容及び方法、評価の工夫が継続的に図られている。	<ul style="list-style-type: none"> ○「活用・探究・表現」等の活動を組み込んだ授業づくりに取り組む。 ○各科目で「パフォーマンス課題」を用いた学習指導を年間1回以上実施する。 ○授業づくり、カリキュラム・マネジメントに関する研修会を複数回行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「活用・探究・表現」等のアウトプットを組み込んだ授業スタイルが確立している。 ○様々な事象を自らの課題と捉え、他者と協働しつつ、クリティカルな思考に基づいて問題解決に向かう生徒を育てる。 ○授業の公開・相互参観が日常的に実施できる。 	教務
	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器・サービスを活用した授業を開始するための準備委員会を立ち上げる。 ○委員会を中心に、準備、模擬授業、研修、環境整備等を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器・サービスを活用した学習活動が確立している。 	準備委員会 教務
	<ul style="list-style-type: none"> ○課題研究の手法について、特にリサーチクエスションの設定方法を系統的に学習する。 ○ゼミ形式の授業を行い、個人指導の体制をとる。 	生徒がそれぞれ明確な目的意識を持ち、研修旅行に参加する。	1学年
確かな進路目標に向かって継続的に努力し、合格を実現している。	<ul style="list-style-type: none"> ○SDGsのテーマに基づいて、研修旅行における班別研修等を通じて、地元地域と世界との繋がりを認識し、課題を見つけ、その解決を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な視点からの分析力や深い考察力が身に付くようGAPを進化させていく。 	教務 2学年会

	<ul style="list-style-type: none"> ○LHRの中で、将来設計を考えさせる進路LHRや学年集会を設定し、自らの進路目標を設定させる ○Classi による学習時間記録を定着させる。 ○復習を促すための活動を組み入れ、復習を習慣化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目標から逆算して、生徒が現在の行動を自ら決定できるようになる。 ○生徒が自らの学習時間を把握し、主体的な学習スタイルを確立する。 ○復習によって得られる学習効果を生徒が認識し、生徒が主体的に復習するようになる。 	1学年
	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら設定した目標を実現するため、逆算して現在の行動を決定していくことができるよう指導していく。 ○学習時間や活動の履歴や成果を適切にまとめる習慣を確立する。 ○模試結果から、志望生徒の課題を明らかにし、個別の学習指導を計画・実施する。 ○個人面談等を通じて学びの目的や生徒個々の適性や興味に応じた情報提供を効果的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学びの目的」や「何を学ぶか」といった視点で受験校や進路先が決定されている。 ○個人面談、学年集会や通信、Classi等を活用し、進路目標や学習時間管理に係る効果的なアドバイスを行い、計画的な学習と復習の質を上げる。 ○年間計画の中で、将来設計を考えさせる内容の進路LHRを計画的に設定する。オープンキャンパスへの積極的参加を促し、講師を招聘して学部学科ガイダンスを実施する。 ○学年会の協力のもと、SHRを利用して教科小テストを実施するとともに論理的な文章の読解力を育成する。 	各学年会 進路指導
	<ul style="list-style-type: none"> ○学年会として進路指導のフロントラインを揃え、団体戦の構えを築く。 ○教員が大学入試問題研究に取り組み、広島大学に合格できるレベルと対策を把握し、授業に反映させる。 ○模試等の効果的な利用を徹底するとともに、広島大学を意識した補習を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○復習重視の学習スタイルを生徒一人ひとりが身に付け、自律的な学習ができるようにさせる。 ○3年間の授業及び補習を中心とした取組で、広島大学に合格できる力を育成する指導システムを構築する。 ○安易に妥協せず、最後まで挑戦する（受けきる）力を身に付けている。 	3学年会 進路指導
部活動に向かう姿勢や成果が学力及び人格の成長につながっている。	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動指導の一環として、部員への学習の自覚を促す指導を行い、文武一体を目指していくという実感を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動指導の一環として、学習指導・課題指導が位置付いている。 	生徒指導
2 貢献と信頼：他者を思いやり社会に貢献する生徒を育て、保護者や地域の信頼と期待を高める。			
学校行事やボランティア活動に主体的かつ協働的に取り組み、充実感や満足感を得ている。	<ul style="list-style-type: none"> ○学園祭に対する生徒・保護者・教職員の事後アンケートを実施し取組を評価する。 ○生徒個々が自らの役割を把握し、自主性を発揮させながら集団へ貢献しようとする気持ちを育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒・保護者・教職員の意見を収集・分析し、取組の改善を行う環境を整備する。 ○生徒一人ひとりがどのように自分の役割を果たし充実感や満足感を抱いてきたのかを全体で共有し自己肯定感の促進を図る。 	生徒指導
保護者の信頼や地域の期待に応える学校づくり及びその工夫が継続的に進んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ○オープンスクールに、生徒を積極的に登場させ、中学生へのアピールとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本校の特色を継続して情報発信し、地元中学校からの志願者数の増加をめざす。 	総務
	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページに学校の活動内容を具体的に盛り込む(生徒会活動、学校行事、部活動実績、地域ボランティア等)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者、地域、地元中学校に開かれた学校として、学校公開行事や広報活動の充実を図る。 	総務
3 安心と働きがい：生徒及び教職員が安心できる校内環境の整備と働き方改革を踏まえた業務改善を推進する。			

<p>学びに集中できる学校環境が維持されている。</p>	<p>○教育相談を受けた生徒・保護者・教職員に対して、事後アンケートを実施し取組を評価する。</p> <p>○生徒指導部との連携の上、「いじめ・生活アンケート」を活用し、より幅広く相談者を募る。</p>	<p>○生徒・保護者・教職員が適切にSOSを発信できる環境が整っている。</p> <p>○教育相談を受けることで、自ら心を整理し、解決に向けた具体的な行動につなげることができる。</p>	<p>環境保健 生徒指導</p>
	<p>○学期に2回美化委員会を定例で開催し、清掃に関する取組について生徒同士で話し合い、実施する。</p>	<p>○衛生的な学校環境を維持しようとする意識をもち、継続的に実施する生徒を育成する。</p>	<p>環境保健</p>
	<p>○全校集会や学年集会など、機会あるごとに社会における挨拶の大切さについて講話をする。</p> <p>○教職員から率先して、挨拶をする。</p>	<p>○風紀委員を活性化させ、生徒が主体となって挨拶を行うよう促す。</p> <p>○生徒指導・特別活動だけでなく、他の分掌からのアプローチを行い、挨拶の定着を図る。</p>	<p>生徒指導</p>
	<p>○全校集会やホームルーム等においてスマートフォンとの向き合い方について考えさせる。</p> <p>○持ち込み誓約書の内容確認及び家庭でのルール作りについて考える機会を与える。</p>	<p>○1 学年生徒全体に対して、専門の講師を招き、扱い方について学ぶ。</p> <p>○年度初めに、誓約書の更新を行い、家庭で正しい使い方について話し合う機会を促す。</p>	<p>生徒指導</p>
<p>働き方改革に向けた意識変革及び業務改善の見直しが進み、教育公務員としての使命や意欲が高く維持されている。</p>	<p>○すべての取組を洗い出し、それに対する業務量を判断し、取捨選択を行う。</p>	<p>○教職員の長時間勤務を縮減し、一人一人が健康で生き生きとやりがいをもって勤務できる環境づくりを推進する。</p>	<p>管理職</p>

令和2年度学校関係者評価シート(中間評価)

令和 2年 11月 25日

校番	24	学校名	広島県立賀茂高等学校	校長氏名	山田 剛司	全日制	本校
----	----	-----	------------	------	-------	-----	----

評価項目	評価	理由・意見
目標, 指標, 計画等の設定の適切さ	B	<p>○育てたい生徒像・ミッション及びビジョン実現に向け, 各分掌の達成目標に対する行動計画が具体的に設定されており, 各々適切である。</p> <p>○「目標値」について, 「新規」とある部分に昨年度の参考数値があると分かり易い。</p>
計画の進捗状況の評価の適切さ	B	<p>○3の「学びに集中できるから」の「挨拶」に係る項目の評価は, 記述部分から見ると「B」→「A」でも良いかと思う。</p> <p>○前年度評価でも指摘した通り, 生徒による授業評価アンケートについては適切ではない。</p>
目標達成に向けた取組の適切さ	B	<p>○家庭学習時間記録・週末課題等が形式的に終わっているのではないか。コロナ禍により, 新しい生活様式が見直されたが, 制約された学習環境の中で創意工夫した取り組みを活かすべきである。(時間の有効活用等)</p> <p>○2の「学校行事や～」の目標に対して, 行動計画の中にボランティアに係る記述がなかった点が気になる。</p>
評価結果の分析の適切さ	B	<p>○地元中学校から, 広島県立海田高校への志望者が増加傾向にある原因を分析する必要がある。偏差値50点台の生徒が減少し, 30点台の生徒が増加している要因を分析し直す必要がある。</p> <p>○様々な視点から分析されていると思う。</p>
今後の改善方策の適切さ	B	<p>○普通科高校としての特色を明確にしていくことが急務であると思う。進学実績で評価されるのは避けて通れない。学力向上のための具体的手立ての見直しが必要である。量より質が問われる。常に授業改善に努めることは言うまでもないが, シンプルに「予習 → 授業 → 復習」のサイクルの徹底が課題である。各教科から出される課題が多すぎるように思う。</p> <p>○学力と家庭学習, 家庭学習と学習意欲には, 大きな関係があると思う。学習意欲を向上させるべく, 具体的な取組を推進していただきたい。</p>
総合評価	B	<p>○【評価結果の分析】、【今後の改善方策】ともにち密になされて, 年度末へ向けての改善の方向性が示されており, 持続可能な取り組みが期待できる。教職員の働き方改革にも関係するが, 部活動が生徒の学校生活の充実に繋がっていることは周知のとおりである。望ましい部活動の在り方について創意工夫が求められる。計画倒れに終わらず, 指導を徹底しきることが必須である。生徒にとって魅力のある人的, 物的環境を整備することが望まれる。</p> <p>○学力については, 3学年時の偏差値の下がり方及び偏差値30以下の生徒の増加という部分に危機感を感じている。</p>